

令和 7 年度埼玉県障害者施策推進協議会
第 1 回ワーキングチーム（C チーム）会議メモ

令和 7 年 7 月 18 日（金）
10：00-12：00
福祉部会議室

参加者：岩崎委員（リーダー）、神本委員、田島委員、川津委員、菊池委員、林委員、
亀岡委員

欠 席：なし

他チーム参加者：万谷委員（A チーム）、下重委員（B チーム）

傍聴者：なし

次第 1 サブリーダーの選出について

田島委員をサブリーダーに決定した。

次第 2 令和 7 年度のワーキングチーム（C チーム）の進め方について

【岩崎委員】

次にこの障害者施策推進協議会、あとワーキングチームにおいて、どこまで議論をするのか、それからどのように意見が反映されていくのか、要するにワーキングチームの進め方について、事務局から改めてご説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】

ワーキングチームの役割と、どういう形で議論していただくのかということ、後は御意見自体が、どのように施策に反映するのかということをお話をさせていただければと思います。

今お配りしている資料 2-3 が、昨年度のワーキングチームで出た意見を集約させていただいているものになります。

基本的に、こちらに沿って意見を出していただいたり、深めていただいたり、といった形で進めていただければと思いますが、実際には計画というものになりますので、県の施策ではあるのですが、実際にその施策に紐づいた事業がないと施策足り得ないということがございまして、御意見いただいたもの全てが事業化されるわけではございません。

ご提言いただいた御意見について、実現可能な事業が紐づけられる場合には、ご提言いただいた内容を計画に掲載することが可能になります。

逆に御提言いただいたことで、事業化の見込みがあるものについては、計画に掲載する、ということもあります。

ただ、ご意見・ご提言につきましては、忌憚のないものをいただきたいと思います。

すので、ワーキングの中では、基本的にご自身のお考えを忌憚なく御発言いただければと思っております。

それを最終的にどの部分を中心に取りまとめていくのかというのは、本会議の方にご報告をいただいた上で、絞り込んでいく作業を今年度お願いしたいと思っております。

今年度は、本計画期間 3 年間の中間年ということで、来年度最終的に計画を策定する前に、施策推進協議会から提言というものを会長名でいただくこととなりますが、同提言に掲載していくものの方向性を決めていくのが、今年度末までの皆さんに担っていただきたいこととなりますので、まずは昨年度のワーキングチームの御意見を踏まえて、論点を深掘りしていただくですとか、まだこういった視点が不足しているといった議論をしていただくことが最初にやっていただくところになるかと思えます。

そのうえで、最終的に意見を絞り込んでいくということが年度末に向けてやっていただくこととなります。

最終的には来年度、その中からさらに厳選した形で意見を提言にさせていただき、県の方にお示しいただくという形になります。

雑駁ですが以上となります。

【岩崎委員】

今のご説明に関してなにか質問やご意見はありますか。

最終的には、本年度の最後にとりまとめるのでしょうか。

【事務局】

そうです。ある程度はまとめていただきます。

来年度、改めてワーキングがありますので、そこで最終確認になります。

来年度はワーキング 2 回、本会議 4 回を実施いたします。その過程で取りまとめたものを皆様お送りして見ていただく作業になると思います。

まず本年はご意見を出していただき、3 回目のワーキングで、特に重要なものの絞り込みをしていただきます。

【岩崎委員】

資料 2-3 の 12 ページから、昨年度の C チームの意見がまとめられています。

【事務局】

岩崎先生がおっしゃっていただいたように昨年度 C チームの意見は 12 ページからになりますが、他チームの意見の後ろに括弧書きがある意見があります。

これは、C チームで意見が出ましたが、他チームにも関わる意見であるという意味です。

そのため、A、B チーム意見の後ろに括弧 C と記載されている場合は、C チームに関連するご意見ですので、AB チーム意見も参考にいただければと思います。

【岩崎委員】

C チームの中心的分担は「共に育ち共に学ぶ教育の推進、安心安全な環境整備」

ですので、その範囲内でご意見をいただければと思います。

協議に入る前に万谷委員からお発言があるとのことですので。

【万谷委員】

お時間いただきましてありがとうございます。

6月6日の第1回障害者施策推進協議会において、突然おおぞら号廃止と伊豆潮風館の数年後廃止の話が出ました。

これら事業は、障害者支援計画の施策の一部に入っています。

これを急に廃止と言われて驚き、埼玉県障害者協議会の中でも、今から言う意見は絶対に施策推進協議会に持って行ってほしい、という話になりまして私が持ってきました。

お配りした資料の一番大事なところを申し上げます。

埼玉県障害者施策推進協議会は、埼玉県の障害団体等有識者で議論する審議会の性格を持っているということは、言うまでもありません。

50年にわたるおおぞら号と伊豆潮風館の取り組みは、障害者の社会参加・研修などで大いに貢献を果たしてきております。現在もその役割は変わっていません。

それが公の施設のあり方有識者会議、事業レビューという手続きにおいて、2つの事業を廃止すべきであると結論付けました。

障害者施策全般を議論する施策推進協議会において議題にも取り上げられず、単に報告事項とされたことに強い憤りと不信感を持ち、障害者施策推進協議会の役割に大きな疑問を感じております。

このような施策決定は、県民に対する透明性が確保されていません。

利用主体である障害当事者の意見を聞かず、一方的に施策を廃止することは納得できません。

社会のバリアフリー化、心のバリアフリー化はまだまだ道半ばであります。そういった中で、この2つの事業は埼玉県が他自治体に誇れる障害者施策ではないでしょうか。

また、この事業廃止に伴う代替案も何ら示されておられません。

おおぞら号、伊豆潮風館の廃止検討事案は、埼玉県の障害者施策に関わる重要なものであることから、施策推進協議会において審議することを求めます。

この際、この2事業が果たしてきた役割を再認識するとともに、障害者の社会参加を保障し共生社会の実現を目指す埼玉県の基本姿勢を大切にしたいうえで、障害当事者に寄り添った審議がされることを望みます。

以上となります。よろしくお願いいたします。

【岩崎委員】

それでは事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】

まず今年度から委員になった方もいらっしゃいますので、経緯についてご説明をさせていただきます。

埼玉県では毎年、事業レビューということで、事業の見直し作業というものを各事業について行わせていただいております。

その中で全ての事業の見直しをするのですが、特に事業期間が長いものであったり、見直しを行う中で、有識者の意見を聞いた方がいいものなどは有識者会議での見直し対象として選定して、特に集中的な見直しを行うということになっています。

おおぞら号に関しましては、事業レビューの中で、50年たっている長い事業ということもありまして、今の社会情勢などと照らし、果たして県としては続けていくべきなのかということと、あとは実際には、色々なご意見があるかと思いますが、受託してもらっているバスの運行事業者からも運転手が令和8年度に大量退職するという話もありまして、受託自体が難しいというようなお話もいただいているということ、あとバス自体が、今年運行に供してから9年目になりますが、通常9年ぐらいで入れ替えをするというタイミングであるということもありまして、事業レビューの中で廃止せざるをえないという結論に達したところではあります。

また、伊豆潮風館に関しましては、事業期間が長いものであるということと、建物が古いということ、長期保全計画等を作って修繕をしていく必要があるのですが、その修繕費用と、今後そのまま維持管理していくことが県として可能かどうかという視点、それを維持管理しながらでも営業を続けていくべきなのかという点等を検討をした中で、有識者会議の提言として、廃止を検討すべきというご意見をいただいています。

有識者会議の提言を踏まえて、潮風館は指定管理期限が令和7年度末になりますので、通常だと次も5年間の指定管理の期間を設けて委託をするところ、2年で指定管理することとなっています。

この2年間のうちに、令和10年以降に大規模修繕を控えていることも含め、果たしてこのまま県として続けるべきか、廃止や、他の方法がないかという点も含め、検討するという結論となっています。

同様のお話を、今回6月の県議会にも報告しているところです。

障害者施策推進協議会には、6月6日に初めて今のお話をさせていただいているところではあるんですけども、有識者会議の提言自体が令和7年度3月末に示されたところもございまして、このタイミングとなりました。

また、皆様のご意見を聞かなかった、という点についてですが、有識者会議の仕組みとして、県の行財政部門が主催しています。

そこに大学の先生やシンクタンクの方達がメンバーとしていますが、その有識者の方々に対して、県庁職員が事業説明する場が設けられています。

その有識者会議において、当事者の方々、関係の方々からのご意見を聞く機会が設けられているかというと今の仕組みの中ではありません。

これらのことから、皆様からのご意見を聞かない状況で、6月6日にご報告という形を取らせていただきました次第です。

次に、万谷委員からのご発言を受けて、県としてどのようにさせていただきたいか、という点について、ご説明させていただきたいと思います。

万谷委員のご意見をいただきまして、私ども事務局としてご提案させていただきたいのは、施策推進協議会の委員の皆様から、有志を募りワーキングABCチームとは別に、おおぞら号、伊豆潮風館に関して、委員の皆様からご意見をいただく別ワーキングを作らせていただくことについて提案させていただきたいと思っております。

す。

既存の ABC のワーキングチームにおいては、計画の見直しについて、かなりの時間を割いて議論をいただかなければいけないため、別のワーキングチームを提案させていただくものです。

具体的には近々に 7 月 29 日から 8 月 8 日金曜日のどこか 1 日 2 時間程度、会議室を押さえ、開催をさせていただきたいと思っております。

別ワーキングの座長についてですが、伊豆潮風館、おおぞら号は B チームの所掌、社会参加に関わる部分ですので、遅塚委員にお願いしたいと思っております。

現場での対面出席、Web 出席を合わせて開催し、委員の皆様でご協議をお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

【岩崎委員】

確認ですが、おおぞら号、伊豆潮風館の廃止は決定ではないということですか。

【事務局】

おおぞら号については今年度いっぱいまで廃止、運行終了が決まっています。

伊豆潮風館については廃止も含めて検討することになっています。

建物の廃止となると、議会にも報告する案件になりますので、議会には 6 月定例会の中で廃止も含めて検討させて欲しいという報告をしております。

最終的に廃止する場合は、議会に廃止条例議案を出さなければいけないので、そこまでは廃止自体は決まりません。

今の方向性としては、存続した方がいいのか、他の代替手段を措置した方がいいのか検討することまでは決まっています。

別ワーキンググループで協議いただけるということであれば、皆様のご意見を聞かせていただき、まとめて、通常の提言とは別に、この件だけの提言という形で施策推進協議会から県に対してご提言いただくという形になるかと思っています。

【岩崎委員】

第 7 期計画にはおおぞら号、伊豆潮風館が掲載されていますが、新計画が出たばかりのタイミングで、こういった経緯でこうなったか分かりませんが・・・

【事務局】

昨年度のやりとりについては、公表できる範囲でお示しできればと思っています。

【岩崎委員】

おおぞら号はバスそのものがかなり年季が入ってしまっている状況ですか。

【事務局】

そうです。走行距離自体はそれほどでもありませんが、経年劣化でかなり故障が多いと聞いています。

【岩崎委員】

委員の皆様は伊豆潮風館は利用されているのですか。

【万谷委員】

毎年利用している団体もあります。

【岩崎委員】

困りますよね。

事務局からの提案では別ワーキングを作って、もともとこの2つの事業が範疇に入っているのがBチームの領域だと。

【事務局】

社会参加の施策として掲載しておりますので、Bチームのところになるので、別途ワーキングチームを立ち上げるとなると、座長が必要となると考えておりますので、Bチーム座長の遅塚委員にお願いできればと考えております。

【神本委員】

2つの事業は、Bチームにおける審議対象ではなく、別扱いとして新たなワーキングチームでの審議となるということですか。

【事務局】

Bチームは本事業も含めて社会参加分野についてり多岐に渡る審議をいただいているところです。

新たなワーキングチームにつきましては、集中的に皆様と審議をしたいというような万谷委員のご意見もいただきましたことと、実際に県としても直接当事者のご意見を聞いておりませんでしたので、主だった団体から委員を推薦いただいている施策推進協議会でご意見をいただき、ご提言という形で県の方にいただければと思っています。

対面参加出来ない方もいらっしゃると思いますので、ウェブ参加、書面参加等でできるだけ御意見をいただけるよう考えたいと思っています。

【神本委員】

万谷さんに質問させていただきます。

障害者協議会はかなりの数の団体が加盟していますよね。

私が本協議会の委員として推薦された母体である自閉症協会や、手をつなぐ育成会等、加盟団体意見を統合した意見ということですよ。

【万谷委員】

加盟団体の意見も聴取しています。

理事会でも一致した決議をもって、意見を出しております。

【神本委員】

それでは知事に直接要望などはされているのでしょうか。

【万谷委員】

既に知事は訪ねております。埼障協の田中代表及び3役で要望書を持参しまし

た。

あとは県議会議員の皆様に話を入れたいので、今アポ取りをしています。

【神本委員】

私は障害者団体から推薦されているのですが、もし別ワーキングチームに参加できなくても意見を提出することは可能でしょうか。

【事務局】

文書による書面参加で、意見を出していただける方策はとりたいと思います。

【下重委員】

7月29日から8月4日の間のいずれかで実施するとのことですが、開催日に仕事があって出られない場合、自立生活協会の別の方が私の代わりに出ることは可能ですか。

【事務局】

基本的に施策推進協議会のワーキングチームですので、委員の皆様の出席をお願いできればと思っています。委員以外の代理出席は想定しておりません。

その場合、意見書による書面参加をお願いできればと思います。

傍聴は可能ですが、傍聴者はご発言いただけませんのでご了承ください。

【下重委員】

大体いつ頃までには開催日が決定しますか。

【事務局】

ワーキングチームが3つありますので、全てのチームで別ワーキングチームを作ることに同意いただき次第、日程調整に入ります。

本日から週明け早々には皆様に日程調整の連絡ができるようにいたします。

【岩崎委員】

各チームからバランスよく誰かを選出することではなく委員全員参加可能ですか。

【事務局】

委員全員参加も可能です。

本日は別ワーキングチームを作ることに同意いただけるか確認させていただきたいと思います。

【岩崎委員】

Cチームとしては、別ワーキングチームを作るということでよろしいでしょうか。

《意義なし》

それでは、各々事務局からの連絡に対し参加表明するという事でお願いします。

次第3 ワーキングチームの検討課題について

【岩崎委員】

それでは議題に入ります。随分Cチームのメンバーが入れ替わりましたね。

【事務局】

継続いただく委員は、田島委員と川津委員のお二人です。

【岩崎委員】

資料2-3に昨年度のCチームの意見が載っていますので、これに関することでも、新たな話題でも何でも構いませんので御意見をどうぞ。

【事務局】

皆様のお手元に昨年度委員だった荒井さんからの意見を置かせていただいております。

これを踏まえて、皆様にご議論いただけるとありがたいと、事前に遅塚委員を介してメールをいただいておりますものです。

【岩崎委員】

災害のことを気にされていて、色々のご発言いただいておりますからね。

【万谷委員】

新井元公募委員から頂いた意見の2点目について、確認と質問をさせていただいてよろしいですか。

災害救助法の種類について、福祉サービスの提供が追加されたということですが、けれども、どういう形で提供されるものなののでしょうか。基本的サポートという形なののでしょうか。障害福祉サービスに何かしら追加されたという認識になるのでしょうか。

いわゆる通所なり通園なりをしなくても、支援提供したということになるのかどうか。そういった解釈の問題があるので、県として提供なのか、国としてなのか、国ではないですよ。

【事務局】

国ではないと思います。

基本的に災害時は直接市町村が支援を行うことになっています。

【万谷委員】

市町村レベルでの確認ということになるのですね。

【事務局】

資料配布するにあたって、事務局が不勉強で大変恐縮です。荒井元委員の資料を見る限り、総合支援法上の障害福祉サービスということまでの言及はなくて、災害

救助法の改正により救助の種類に福祉サービスの提供が追加され、福祉関係者との連携強化や、避難所だけでなく在宅避難者や車中泊の皆様にも福祉サービスを届けられるようになったと言う書き方しかされていません。

そのため、総合支援法上の障害福祉サービスが使われるのか DMAT のようなものを派遣するのか不明です。

改正前案を見た限りだと、特に田島委員のように視覚障害があって、普段通っていた道が地震等災害により変形してしまうと外に出づらい、避難所までたどり着けないという方であったり、障害特性によっては他の方たちと一緒に生活しづらいということで、在宅、車中避難する方もいらっしゃると思いますが、そういった方々にも物資がきちんと行き届くようにすること、どのような支援が必要かということ等を個別に確認する職員を派遣するという事等を手厚くする方向性がでていました。

その点を考えると総合支援法上の障害福祉サービスを提供するのではなく、DMAT 等職員が訪問する等して支援をするというようなことだと思います。

【万谷委員】

そうであれば、県レベルの話には違いありませんが、市町村に対して、そのようなことが義務化されていく、という話になりそうですね。

施策推進協議会としては、市町村に対する移行・移管を将来的に進めてください、という話になるのかと思います。

【事務局】

例えば、そのように記載するとなると、市町村がしっかりと対応するよう県として働きかけをしてください、という書きぶりになるかと思います。

制度については深く具体的に調べておきます。

【下重委員】

ピアサポートの要請研修を私も受けたんですよ。

今、事業所と雇用関係を結ばないとお金が出ないとのことで、週何時間働かなければならないといった状況があります。

私は長時間働くことができないので、同研修を受けたけど、難しいのかなと思っています。

避難所で、障害者がお互いに助けてもらいたいことを伝えたいと思い、自分も出来るかなと思いながらピアサポート研修を受けたものの、仕事をやっている人が少ないらしいです。

だからもったいないなと思っています。

【岩崎委員】

ピアサポート基礎研修は、特に埼玉は基礎研修を広く多くの方に受けてください、ということでやっていますよね。

他の都道府県は、基礎と専門は一体的に考えていて、基礎を受けた方は専門を受けるということになっていますが、埼玉県では広く基礎研修を受けてくださいとしているので、働くということに特化した研修にはなっていませんよね。本来、専門研修までうけていただいた方がいいのですが、下重さんは受けてらっしゃいます

よね

一方で色々なサービスは拡充してきてはいるんですよ。報酬改定で事業は増えていきますし、また今度の令和9年の改定で対象の事業が増えればいいと思っています。

受講していただいただけですと、もったいないですよ。活用できる事業が増えればいいのに、と思うのと、有事の際にぜひピアサポーターの皆さんが活躍できるような場面があればいいですよ。

災害対策基本法等の一部を改正する法律にあたって、私たちがイメージする障害者の具体的な福祉サービスのことというよりは、かなり生活場面におけることのようにですね。

ぜひ次のワーキングチームの時までに、Cチームのテーマに関連しますので、教えていただけると有難いです。

【事務局】

危機管理部門にも確認しておきます。

【林委員】

うちの娘は不登校だったのですが、義務教育課程であるにもかかわらず、フリースクールなど別の場所で就学しなければならない状況になっていることが、20何年前に自分が経験した時代から改善されていないので、正直言ってショックでした。

全体の話聞いていて、先ほどのバスの件でも、財務課から福祉部に話が上がってくるのが、県の横のつながり、県全体の流れが遅いのために、見えてこない、話があがってこないっていうのが全体的に悲しいと思いました。

福祉に携わるようになって感じることは、支援の継続性がすごく重要です。色々な議題が上がっていますが、支援の継続性に関しては、部署が一丸となっていけないと、なしえない気がします。県庁内の様々な課の繋がりを、もっと密にしていたきたいです。

教育の場でも精神教育を、ということで、連合会でも東大佐々木先生を講師に学んだことがあります。そういったことは施策推進協議会でも活かされていくべきです。障害者の理解を深めていくことについて、教育でも同様の課題を取り上げて、横の連携を密にしていいただければ、埼玉の県政がもう少し前へ進むように思います。

自分達が活動していることがどう生かされているのかというのが分からないでいます。

【岩崎委員】

福祉と教育の連携ということをCチームはやらねばならない中で、林委員は20年前から変わっていないのではないかとされていると。

【林委員】

20年前から何も変化がなくショックでした。

【岩崎委員】

事務局の認識としては、各課の連携は進んでいるのでしょうか。

【事務局】

以前に比べると、福祉と教育の連携がましになってきていると感じます。

教育現場において、特別支援教育だけでなく義務教育課程の中でも障害理解を取り入れていくことがトレンドになっておりますし、教育サイドとしても福祉部の情報が欲しいということで意見交換する場があります。

以前に比べれば、少しずつですが、情報交換出来ていると思っています。

施策推進協議会の力もあると思いますが、本会議には教育部門にも出席してもらっていますし、必要に応じて議事録などの共有しています。

ただ、より一層努力は必要だと思います。

【亀岡委員】

特別支援学校、学級に通っていても、適切な対応がなされないために二次障害である強度行動障害となってしまうたり、不登校になる生徒が増えてきていると会でも話題になっています。

特性に配慮した適切な支援が受けられると思って特別支援学校、学級に入るのに、その対応がなされないのは、教員の専門性、障害理解がまだまだ進んでいないのだと思います。

私の息子が特別支援学校に行った10数年前から先生方の対応が変わっていないと感じます。特別支援学校、学級に通う児童生徒の不登校数は分かるのでしょうか。

【事務局】

昨年度、教育局に問合せましたが、分かりませんでした。

しかし、岩崎先生に調べていただいたところ、調査項目に加わっている形跡がありましたので、もしかすると今であれば取りまとめ結果があるかもしれません。

確認いたします。

【岩崎委員】

不登校の子がいることが当たり前になってしまっている。

学校に通うことに周囲が情熱的になってくれない現状があるよう。

若しくは、体調が悪くてお休みが長引いているのか、それとも別の理由なのか分かりませんが。

【亀岡委員】

不登校になっている本人もうまく伝えられない場合も多いです。

学びの多様化学校が開校されて、不登校の方とかをうけいれる話になっていた気がします。

【事務局】

いわゆる不登校特例校ですね。

【亀岡委員】

特別支援学校・学級に籍がある方達は入学対象なののでしょうか。

設置義務なのかモデル的にやるのか。

【事務局】

そこまでは分かりません。義務なのかモデルなのか。

【神本委員】

亀岡委員がおっしゃったように、不登校特例校の整備は将来的に必要ですけども、専門性のある教員人材が少ないことを心配されているんですね。

【亀岡委員】

多様化学校といったものが必要ないのが一番いいですね。

【神本委員】

放課後デイについても、ただの預かり機能となっていないか、親御さんが預ける、頼ることに慣れてしまっているのではないかと思います。

私の意見としては、親御さんがお子さんを預けて働きたいという願いを持った際、それに答えられるような仕組みが、本当の親支援として必要なかと思っています。

放課後デイについてはまだまだ議論するべき点があります。

特別支援学校の質や専門性の問題もありますし、今回のワーキングチームの中で広げていけたらと思います。

現状としては専門性のある教員が中々いない。

私も元教員でしたので、そういった情報が入ります。

現実そういう課題がある中で、子供たちをどう守っていくか近々の課題であると思いますので、ここについては問題提起したいところです。

【林委員】

精神関係の雑誌で読みましたが、2025年から厚労省が家族支援体制整備に取り組み始めたみたいです。そういった情報を埼玉県でもキャッチしていただければと思います。

【神本委員】

家族支援がすごくクローズアップされています。

家族支援はとても重大だし、子供たちにとって親は重要な存在なので、そこが仕組み上支援されることでお子さんのためにもなっていくと思います。

【亀岡委員】

お母さんたちが安心して働けるためにも預けるところが大事とのお話ですが、家族支援と発達障害のことを正しく学べる機会が本当に少なく、療育にいけない子がいないくらいの状況であるにも関わらず、発達障害の特性が分からず我が子にどのように対応していいかわかっていない、療育機関が教えてもくれないお母さんがいます。

預ける時間も長いので、お子さんと接する時間も短いです。自分の子供のことを理解できていない親御さんがとても多い。

今の療育は、うちに来ればこれができるようになります、預かります、とその点

ばかりが目立っている。本当は、生活上の困難に対し、こういうサポートがあれば、上手くいくというものであるべき。

今、合理的配慮が義務化されていますが、障壁を取り除くために具体的に要求し建設的対話をしなければなりません。こういうサポートを求めたいと相談せねばならないのに、親が子のフォローを申し出る際、こういったサポートがあれば上手く出来ますと親が理解できていないといけない。それが出来ない親が多いから結局、合理的配慮も受けられない。今現在の療育のあり方が気になっています。

【岩崎委員】

療育も人材不足、福祉サービスに従事する人材の質も厳しい状況にあります。教員のなり手がいない、福祉サービスも常に人材不足。質の高い支援をどうすれば担保できるのかということで、給料を上げるですとか、先生方は残業時間を減らす等の労働環境改善も含めて、国も一生懸命取り組んでいるんでしょうけど。追いついていないですね。

【神本委員】

平成18年から地域療育事業を受託して、福祉サービスに入り込めないお子さん、福祉サービスの対象にならないお子さん、成人期の知的障害・発達障害のお子さんに対して専門的なサポートをしていく、個別に面談をしたり個別にレクリエーションをしたり、個別にプログラミングした療育をしたりといった機会を作っていて、同様の事業を実施する事業所が埼玉県の中で17機関あります。

是非、こういった機関とやり取りが出来ればいいと思います。

実際に、3歳から地域療育をしていたお子さんが30歳近くになった中でも成長が見られているので、そういう機関とのやり取りを県も後押ししているので、そういう活用の仕方もあるのではないかと思います。

ただ、理学療法士や臨床心理士が必ずしも配置されているかっていうとそうではないところが多いのかもしれない。

逆に言うと、県が専門性を持つ方々を確保して、全県域に配置するというのもいいかなと。大石先生といった素晴らしい先生方がいらっしゃいますので、ぜひ協力したらいいいと思います。

【岩崎委員】

専門的な方を増やす、充実させるというのは意見が出ていますよね。

家族支援に関してこれまであまり議論になっていないですね。

福祉行政の質をあげてほしい、高めろというお話はありましたが、家族支援というお話はあまりでていない。

障害のあるお子さんたちを抱えているご家族に対する支援、家族そのものが成長するために、後押しするような家族支援が必要ということですね。

皆さんから色々なことをお聞きしますよ。昔はサービスがなかったから、親御さんたちも、自分で抱えざるを得なかったけど、今は長時間預かっていただける。女性の社会進出もあって、自分のお子さんのことを良くご存知ない親御さんが多いと色々ところで聞きます。

【神本委員】

昔はなくて当たり前の制度でした。

そのために、当事者同士、手をつないで情報を共有していたということがありましたが、今は他の障害のある子供がいる家族のことを知らないのです。

孤立した家族になってしまう。そこに情報が入り込めないから、児童発達支援、放課後デイによる支援で親御さんらの交流場面や、ペアレントトレーニングができる機会を作って、そこで学んだことが、次の親御さんらに繋がるということを、自閉症協会の方々が願いを込めてやられていると思うんです。

お母さんたちが、色々分かることで、他の人に伝えられる機会が増えてくることで広がりにつながっていくのではないかと思います。

親自身が育つことを、親支援の機会として捉えられたりするとそれがプラスになるのではないかなと思います。

よく言われるように、発達障害系のお子さんをお持ちの親御さんと、重症心身障害のお子さんを持つ親御さんは、意思疎通が難しい。うちの子はこう、うちの子はこうという違いだけが主張されて、一致できないことが多い。

だからこそ分からないことをお互いに分かるようなサロン、ペアレントトレーニングを開催すると良い機会になると思います。

リードしていくのは県等が委託してるところがいいと思いますが。そういう機能があると親育ち子育てに繋がるのではないかと思います。

【岩崎委員】

そこに報酬がつけばいいですね。

中々難しいですが。

【下重委員】

不登校の問題は普通学校でも増える一方で、つまり学校っていうものがいられる場所になっていないことが問題で、学校教育そのものを問題にしていけないと、支援校でも普通校でも同じなのではないかと思います。

教員の技術の問題だけでなく、根底のものがあると思います。

【岩崎委員】

おっしゃることはごもっともなんですがね。

不登校も学校に行かないことを親御さんが容認しているご家庭もあるみたいだし、増えてきてるそうですね。どうすればいいんですかね。

教育システムがね、危機に瀕している感はありますけど。そうかと言って、長く続いてきた仕組みを抜本的に変えていく力は施策推進協議会にもないですからね。

障害のあるなしにかかわらず、学校教育の仕組みに入って行けないですとか、自分から拒絶する方もいらっしゃるようになってきたり、複雑ですね。

【川津委員】

川津です。

皆さんのご意見もとてもだと思います。

聞こえない子供たちの学校環境もやはり難しい。

手話での教育が難しく、コミュニケーションが取れなかったり、手話ができない教員がいたり、不登校の子供たちも学校の環境であつたり、手話コミュニケーション

ンの課題であったり、コミュニケーション力の問題であったりと、様々な課題があると思います。

やはり学校教育の中で研修を利用して技術を磨くことだと思います。

また、それだけでなく、学校長との面談・意見交換、年に2回ほど開催されています。引きこもりの子だけでなく、教育方法・課題も含めて懇談の場が開催されています。

実際県に対しての要望よりも、学校を通して、学校と直接、県と懇談以外にも学校と直接話す、課題解決に努める方法があります。

【田島委員】

私は教育については、詳しくは分かりません。

私が教員試験を受けていた頃、埼玉県は一般の学校の先生の試験しかなかったように記憶していて、千葉、福島、愛知、東京は支援学校の先生は、支援学校の先生の受験区分があって、専門に学んできた学生が受験していたように記憶しています。

埼玉県は普通学校の先生が支援学校の先生もやるという形だったので、もしかすると専門的に教員を採用している都道府県に比べると少し知識は少ないのではないのかなと思うことがあります。

【岩崎委員】

今は別区分で試験がありますよね。

【田島委員】

過去の長い歴史の中で、埼玉県はそういう取組が遅れていたのかなと。年配の先生はもしかすると専門性が少なかったりしたのではないかと想像しています。

【川津委員】

川津です。

防災についてですが、確認したいことがありまして、障害者支援計画冊子の95ページ制度番号339番に、防災に関するパンフレットの配布を行い、防災関係の知識の普及啓発をすると書いてありますが、内容はいいと思いますけれども、心配なのは、聴覚障害に対するコミュニケーション手法について手話、筆談、身振等を掲載した方がいいと思います。その他には肢体不自由、視覚障害の方への支援等、障害種別ごとの支援を載せた方がいいと思います。

実際、市町村を見ますと、考え方が様々でございまして、県として統一した方法があれば参考になると思います。

触れ合いの場の機会を増やして、災害時の対応を広めていくという考え方も大事だと思っています。

その対応が増えていけば、支援する体制に繋がっていくと思います。

普段からの関わり方が、災害時の関わりにも繋がると思いますので、そういった制度を含めて検討していただけると助かります。

【岩崎委員】

もし新しく作られる防災パンフレットのようなものがあるのであれば、今の御意

見をきちんと含んでいただきたいということですね。

【事務局】

危機管理課、消防課は一般向けに、「いつも防災」といった講座を行っています。

実際に災害時に被災された方の支援をするのは市町村職員になりますので、川津委員の御意見のように統一的にご理解いただくような機会があればいいという御意見もあると思います。

県としては、平成18年度に作成した高齢者・障害者の特性に合わせた支援マニュアルを配布しています。ただ更新がされておりませんし、最近の災害を経て判明した問題点・課題点がありますので、作り直す際は御意見いただいた視点を入れて、皆様から意見を聞きながら、作り直すことを検討します。

【岩崎委員】

ぜひ障害のある方に対する理解を含めた防災パンフレットが出来るといいです。

【神本委員】

私は自立支援協議会の医療的ケア児部会にも参加させていただいているのですが、防災に関しては、要支援者にかかわる支援計画が課題でして、全国的な課題だと思いますが、いい例がありません。その中でも青森県等作られたものを活用させてもらうなどが重要と思っていますが、それでも、医療的ケア児に関するものは使えないものばかりです。

パンフレットに記載されていても、近所の方々にそれを理解していただいて、誰が災害時に関わってもらえるのか、明確にならない。

支援計画そのものをより細分化し明確に出来るようなものをパンフレットと同時配布する等活用できるような形式で配信していただきたいと思います。

なかなか大変でレベルの高い要求だと思いますが、どうしても、医療的ケア児は医療機関も限定されてしまいますし、人数的にも全県で700～800人くらいの人数です。医療的ケアの方々に対してきちんとしたものが出来るのであれば、それは他の障害の方々にもプラスになる面があると思いますので、

要配慮ということについては、プラス事項になる項目をぜひ沢山繋いでいただいて、それを市町村におろす、さらに市町村の中の自治会とかにおろせるものにしていくことが今重要なことだと思います。

【事務局】

一応個別避難計画の策定についてが福祉部でも担当課がありますが、市町村職員向けの研修なども行っているの、そういった場で優良事例を紹介することについて提案したいと思います。

埼玉県は要支援者名簿、個別避難計画の策定率が非常に悪いです。

今働きかけを毎年しているところではありますので、良い事例を吸い上げて共有していきたいと思っています。

【下重委員】

計画冊子94ページについて。私の最寄駅が上福岡駅なのですが、ホームから落ち

た視覚障害の方が何人かいて、やっとホームドアを作る予定が立ったのですが、障害者の方が落ちてから作るというのが、どうなのかなと。

【事務局】

ホームドアの設置は交通政策課で、一般道から駅へのアクセスとなると市街地整備課が関わります。

【岩崎委員】

ホームドア整備がまだ全然進んでないところも結構ありますよね。無人駅も増えています。どれくらいの整備状況なのか情報をいただけますか。

【事務局】

可能だと思います。

【亀岡委員】

視覚障害のある方は、ホームドアがあるととても助かると思います。

県との話し合いでも、毎年要望していて一応、回答はしてくれるのですが。 JRがホームドアの設置が一番厳しい。同じホームに違う電車が止まる関係らしいです。

西武鉄道がホームドアが一番多いかもしれませんね。

【岩崎委員】

それぞれの路線が何%くらい、ホームドアを設置しているか教えてもらえればと思います。

こんなことも是非検討したい、という御意見がありましたら、次回のワーキングでお願いします。

それでは事務局にお返しします。

【事務局】

以上でワーキングチームを終了いたします。本日はありがとうございました。